

# R8 ミノリムギ栽培暦

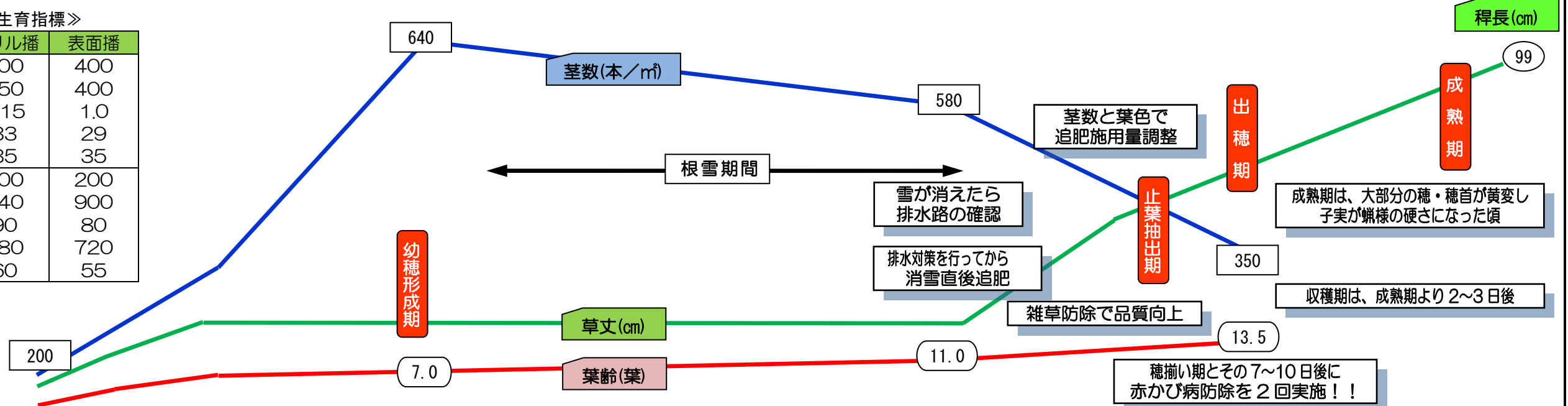
JA えちご中越 さんとう地域

生育のめやす・目標

《ミノリムギの収量と生育指標》

項目	ドリル播	表面播
収量(kg/10a)	400	400
穂数(本/m <sup>2</sup> )	350	400
1穂粒重(g)	1.15	1.0
1穂粒数(粒)	33	29
千粒重(g)	35	35
苗立数(本/m <sup>2</sup> )	200	200
越冬前茎数(本/m <sup>2</sup> )	640	900
越冬茎歩合(%)	90	80
越冬後茎数(本/m <sup>2</sup> )	580	720
有効茎歩合(%)	60	55

麦づくりは排水対策から



時期	9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月			4月			5月			6月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下

作業名

排水対策、種子予措、施肥、耕播起種

越冬前追肥

《時期別生育の様子》

11月上旬、降雪前、茎立期、出穂期、成熟期

排水手直、消雪直後追肥、除草剤散布、茎立期追肥、止葉抽出期追肥、赤かび病防除①、赤かび病防除②、収穫

栽培管理のポイント

**排水対策**

- 周囲明きよ  
ほ場周囲：幅 30 cm、深さ 25~30 cm程度
- ほ場内排水小溝  
ほ場内：幅 20~30 cm、深さ 20 cm程度  
ほ場条件により 3~5m 間隔程度に設置
- 弾丸暗渠  
心土破碎を兼ねながら深さ 35~45 cm程度  
透水性の悪い土壌で 2~3m 程度  
(透水性の良い土壌では間隔を広げる)

**【消雪直後追肥】**  
平均気温が 5℃以上になった時期

窒素成分施肥量	カリ成分施肥量
3 kg/10 a	2~3 kg/10 a

※消雪が 3月 20日以降となった場合は、消雪後できるだけ早く実施し、茎立期追肥は行わない。

**【茎立期追肥】** 主稈長が 2 cm以上になった時期

茎数	葉色 SPAD	窒素成分施肥量
600 本/m <sup>2</sup> 未満	4 2 未満	2 kg/10 a
	4 2 以上	1~2 kg/10 a
600 本/m <sup>2</sup> 以上	4 2 未満	1~2 kg/10 a
	4 2 以上	追肥実施せず

※確実に止葉抽出期追肥ができるよう調整する。

**【止葉抽出期追肥】** 40~50%の止葉が抽出した時期

茎数	葉色 SPAD	窒素成分施肥量
500 本/m <sup>2</sup> 未満	4 5 未満	2 kg/10 a
	4 5 以上	1~2 kg/10 a
500 本/m <sup>2</sup> 以上	4 5 未満	1~2 kg/10 a
	4 5 以上	0~1 kg/10 a

**播種** <目標苗立数 200 本/m<sup>2</sup>>

中雪地帯(平年根雪 60~90 日) 9/25~10/5  
少雪地帯(根雪 60 日未満) 9/25~10/10

- 播種量(10 a 当たり)  
ドリル播 7~8 kg  
表面播 8~10 kg(土壌条件が良好)  
10~12 kg(土壌条件が不良)

**【雑草防除】** スズメノテッポウ、スズメノカタビラ対策を重点的に

時期	薬剤名	10 a 当たり使用量	希釈水量	備考
播種直後 (雑草発生前)	クリアタン乳剤	500~700ml	70~100ℓ	表面播種では 使用しない
	ゴ-ゴ-サン細粒剤 F	5~6 kg	-	
越冬後 (節間伸長前)	ハーモニ DF	5~10g (スズメノカタビラ 5 葉期まで)	100ℓ	スズメノカタビラ に効果劣る

**【病虫害防除】**

①種子消毒 ※風呂等を利用し、種子全体に均一に温度がかかるよう注意する

対象病害	消毒の手順
裸黒穂病、なまぐさ黒穂病、 堅黒穂病、斑葉病、雲形病	初期の湯温 ~加熱せずに蓋を少し開け自然に下げる~ 42℃ (10 時間) → 30℃

②本田防除(無人ヘリ)

対象病害	時期	薬剤名	10 a 当たり使用量
赤かび病	穂揃い期	トップジンMゾル	8 倍 0.8ℓ (収穫 21 日前まで)
	1 回目防除の 7~10 日後	チルト乳剤 25	8 倍 0.8ℓ (収穫 21 日前まで)

※赤かび防除は全ほ場で必ず 2 回実施する。